

平成 24 年度 「歩くまち・京都」 推進会議 摘録

- 1 日 時 平成 25 年 3 月 28 日（木）15 時～17 時
- 2 場 所 京都ホテルオークラ 17 階 アポロン
- 3 出席者 別紙出席者名簿
- 4 報 告
 - ・「歩くまち・京都」総合交通戦略に掲げる 88 の実施プロジェクトの進捗状況
 - ・平成 24 年度の「歩くまち・京都」の主な取組
 - ・「歩くまち・京都」総合交通戦略の効果検証について
- 5 議 事
 - ・平成 25 年度以降の展開について

（１）開会

（塚口会長：立命館大学教授）

- 本日は年度末の大変お忙しい時期に出席頂き、ありがとうございます。「歩くまち・京都」総合交通戦略は、人が主役のまちをつくりあげるという品格ある目的を掲げて推進されている。一朝一夕で達成できるものではないが、進捗を管理して一日も早く実現を図ることが重要である。本日出席の委員の皆様の多様な視点から有用な御議論をいただければ幸いである。

（２）意見交換

（松中委員）

- 本日の資料は、量的なデータが主である。一方で、徒歩の来訪者が楽しめたのか、どこからどういう目的で来られているのかという質的なデータについても、実態調査を実施されてはどうか。
- プロジェクトの前後の実態調査を分析することにより質的な変化を把握できる。プロジェクト実施後には、事前の調査が出来ないので、大きなプロジェクトの実施前には実態を調査しておくことが有効である。

（事務局）

- 歴史的都心地区と観光地において、滞在時間や消費金額のアンケート調査を実施して、分析中である。

(藤田委員)

- 施策が周知されているのか疑問である。例えば四条通は自転車通行禁止であるが、依然として自転車が通行している。自転車通行禁止のサインがあると良い。福岡に「押しチャリ」というサインがあって、親しみやすいので参考にされてはどうか。
- ロードプライシングを検討するとしているが、ロードプライシングを実施しているロンドンでは、夜間の路上駐車を無料で認めるなど柔軟な対応も合わせて実施されているので、参考にされてはどうか。

(事務局)

- 四条通の自転車通行禁止については、路上の安全柵やバス車内で地元商店街等と連携を図りながら周知を行なっている。
- ロードプライシングについて市議会議員の海外視察に同行した。路線バスなど自動車以外の移動の利便性を高めることが重要であると感じた。

(塚口会長)

- 駐車場対策は、地味な印象であるが、駐車場に関するマネジメントや立地の誘導なども有効な取組である。

(村上委員)

- 来訪者の効果検証については、後日報告いただくアンケート結果より確認したい。
- 通年型のパークアンドライド駐車場の利用状況について、示されている利用台数は多いのか少ないのか、また、周知はどのように実施したのか教えて頂きたい。
- 「歩いて楽しいまちなかゾーン」について、来訪者や市民にどのように周知を図っていくのか、ロゴマークを活用してどのように展開していくのかお聞きしたい。

(事務局)

- 通年型のパークアンドライド駐車場は東福寺が近くにあり、来訪者の多い紅葉の時期には多くの利用があったが、この駐車場から公共交通に乗り換えてまちなかへ観光に行くなど本来の目的である利用には、まだ繋がっていない。
- 歩いて楽しいまちなかゾーンのロゴマークを幹線道路から細街路への入口に設置することにより、周知拡大を図って行きたい。

(奥野委員)

- まちなかの駐車場について、まちなかの大きな住宅の持ち主が亡くなった場合、マンションになるか駐車場になるかが多い。

- 細街路に荷捌きの車や路上駐車があると、歩行者の危険度が増すので、対策が必要である。
- 若者のクルマ離れの傾向が指摘されていることから、情報を発信するターゲットをよく吟味すべきではないか。

(事務局)

- 歴史的都心地区で大規模な駐車場を整備されようとする場合には、駐車場以外の用途にされるようお願いしているが、強制力がないため効果は限られている。公共交通に対する取組を実施されている場合は、駐車場の附置義務を緩和するといった取組を推進しているところである。
- 都心部では、物流事業者が台車・自転車で横持ち配送することを拡大中である。
- パーソントリップ調査結果によると、若い世代のクルマ利用が減少しているとともに、全体の移動数も落ち込んでいる。

(松中委員)

- パーソントリップ調査は、移動の目的・手段を把握することができるので、交通特性を分析しておくが良い。
- ただし、パーソントリップ調査は近畿圏内の移動に限られているため、遠方からの観光客の動きは捉えていない。近畿圏外からの来訪者が多い京都の特徴を考えると、観光目的の移動については、別途調査を実施されるなどの対応が必要である。

(塚口会長)

- 業務目的が落ち込んでいるのが、今回のパーソントリップ調査の特徴である。
- 駐車場附置義務は下限を設定する制度であるが、駐車場台数の上限を設置することについても、長期的に検討していく必要がある。

(今福委員代理)

- 公共交通センターについて、現状の利用者数の評価や、京都駅の観光案内所との役割分担について教えて頂きたい。

(事務局)

- 修学旅行との連携や、どこにいても案内できるようなシステムを構築するという方向性を考えている。また、観光案内所のチラシに案内システムのQRコードを記載するなどの方法で連携を図りたい。

(清水委員)

- 歩いて楽しいまちなかゾーンのカラー舗装の色の意味の周知徹底が必要ではないか。

- 乗り換え案内を英語化されるとのことであるが、中国語などの対応も必要ではないか。

(事務局)

- 他都市では自転車の走行空間は青色に着色することが多いが、京都市では路面に着色できる色を、あまり目立たない色に限定していることもあり、現在の色を採用しているところである。

(塚口議長)

- 警察庁もゾーン対策を推奨していると思うが、京都府警の取組はいかがか。

(木村委員)

- 平成23年9月にゾーン対策を推進するため、「ゾーン30の推進について」、警察庁から通達が出された。
- 京都府警ではこのゾーンの取組をまちなかに限らず検討しているところである。
- 亀岡や祇園の事故の教訓を活かして、歩行者の安全を確保していきたいと考えている。

(事務局)

- 乗り換え案内の英語以外の多言語化については、予算とも調整しながら検討してまいりたい。

(澤野委員)

- 「歩いて楽しい」ことの内容・実感を深掘りして、発信していくことが大事ではないか。事務局では「歩いて楽しい」とは、どのようなことだと考えておられるのか教えて頂きたい。
- 歩道を自転車がスピードをあげて走行されていることが時々あり、危険だと感じる。
- 裸足で歩くことで土踏まずが発達したり、歩いて楽しいことに加え健康になったりと、歩くことには多様な効果がある。

(事務局)

- 観光客の不満の項目については、交通・道路が上位にあがっており、この対策が必要であると考えている。
- 国土交通省が自転車道路を整備していくためのガイドラインを策定した。御池通で平成25年度に自転車走行区分を明確化していきたいと考えている。

(佐伯委員)

- 歩いて楽しい東大路の整備予定について、教えて頂きたい。バス停ではバス待

ちの人により混雑しており、段差が多いので車椅子では通行しにくいという問題もある。

(事務局)

- 昨年8月に、基本的な考え方を整備構想として策定したところである。道路の拡幅は現実的ではないので、現在の幅員の中で再構成をする予定である。
- バス待ちの人が快適に待つて頂けるように、バスロケの拡充や、民間の土地を活用してバス待ちができるような取組を進めている。

(平井委員)

- 東大路通は、L R Tで大量輸送できれば問題が解消するのではないか。
- 市議員の方と海外視察に行かれたとのことであったが、もっと多くの議員の方々に実際のL R Tに触れて見聞を広げていただきたい。

(山田委員)

- これだけ多くの取組を推進されていることに驚きかつ敬服している。

(森委員)

- 経済や生活があるので、単にクルマの流入を抑制すれば良いというものではなく、バランスを考慮されながら推進されているのだと思う。
- 「歩くまち・京都」というのは市民によって創出されるべきものだと思うので、「歩くまち・京都」公共交通センターについても観光客だけでなく、市民を対象に取り組まれているということかと感じた。

(事務局)

- L R Tについては、これからの京都のふさわしい交通のあり方をまとめた上で、市民ぐるみの議論を進めていきたい。また、ロードプライシングを含めた自動車交通の流入抑制についても検討していきたい。

(平井委員)

- そういうことは、10何年前から指摘しているということを忘れないようにして頂きたい。

(内藤副会長)

- 個別の施策の評価はできているかもしれないが、CO₂排出量のような総合的な指標にも留意すべきである。
- 駐車場ではなくポケットパークができるように、補助金等により誘導すると良いのではないか。
- 歴史と文化がふさわしい京都には、車はふさわしくない。色々障害はあると思

うが、京都が先陣をきって突破してもらう事に期待している。

(塚口会長)

- 本日の議論で寄せられた効果検証に関する意見を参照しながら、改善して頂きたい。
- 全体的な方針に対する反対意見はなかったため現在の方針に基いて推進して頂きたい。

(3) 閉会

(平口副市長)

- 本日は、年度末の大変お忙しい中ご出席いただきまして、また、長時間にわたり貴重なご意見を賜りましてありがとうございます。
- 「歩くまち・京都」の取組は、クルマを使える人が減っていく少子高齢化社会において、暮らしやすい社会を維持するための取組であるので、委員の皆様には引き続きご支援を賜りたい。

平成24年度「歩くまち・京都」推進会議 出席者名簿（敬称略）

	所 属 ・ 役 職 等	氏 名	代 理 出 席 者
会 長	立命館大学教授	塚口 博司	
副会長	京都大学名誉教授	内藤 正明	
委 員	醍醐コミュニティバス市民の会会長代行	岩井 義男	事務局長 今福 久
	国土交通省近畿地方整備局建政部長	山田 俊哉	
	京都市教育委員、スポーツコメンテーター	奥野 史子	
	京都市地域女性連合会副会長	佐伯 久子	
	市民公募委員	澤野 ともえ	
	市民公募委員	清水 宏美	
	京都商工会議所地域開発・都市整備委員長	平井 義久	
	フリーエディター	藤田 晶子	
	京都府政策企画部長	本田 一泰	
	京都大学大学院准教授	松中 亮治	
	株式会社京都放送ラジオ編成制作局長	村上 祐子	
	国土交通省近畿運輸局企画観光部長	森 宏之	
	京都府警察本部交通部長	木村 武徳	

事 務 局 (京都市)	副市長 都市計画局長 都市計画局歩くまち京都推進室長 都市計画局歩くまち京都推進室事業推進担当部長 都市計画局歩くまち京都推進室土木技術担当部長 他	平口 愛一郎 小笠原 憲一 別府 正広 宮崎 秀夫 中村 豊彦
----------------	---	---